

大久野通信 vol.19

こと作りの輪



長い冬が終わり桜のシーズン到来です。活動拠点周辺も、桜が山に彩りを添えています。これまでの活動で、農業に伴う様々な課題を経験し、この分野でもSDG'sを意識する必要があると感じました。一方で、交流の輪も広がりました。活動拠点は、何か「こと」を起したい仲間たちが集う場所になっています。

INDEX

- ・マルチの使用禁止！
- ・こと作りに集う人々
- ・大久野倶楽部の「こと」
- ・今後の展望

マルチの使用禁止！

これまでの活動で、農業に使用するプラスチックが結構あると感じました。その代表は、黒色フィルムの「マルチ」です。生分解性素材もある様ですが、主流はやはり安価な非分解性の物です。遮光による雑草の育成抑制や保湿がマルチの役割なので、竹炭、檜の葉、稲わらがその代替とならないか試行することにしました。循環型の農業、これが今年のテーマです。



一般に使用されるマルチ



廃材利用のマルチ代替

こと作りに集う仲間

竹林再生など里山整備をボランティアで行ってきた日の出三六会さんですが、今年度で惜しくも解散です。解散はしますが、熱い思いを持った有志の方々は、自主参加の形で引き続きこの拠点に集うことになりました！
[Syncs.Lab](#)さんは、天然素材の衣料を土に返すことを試行されています。弊社の取引先からも、有志が参加してくれています。大久野倶楽部の活動拠点は、「こと」を起したい思いを抱く様々なメンバーが集い、何かを生み出そうとする熱意に溢れた場所になっています。



日の出三六会解散会の集合写真



三興商事(株)三保様の雄姿

大久野倶楽部の「こと」

東京にも限界集落は存在する！そんな思いを抱かせる活動拠点です。里山の整備では、そこに存在する様々な課題を肌で感じることができます。過疎化で放置された竹林は荒廃が進んでおり、状態回復の作業で大量の廃竹が発生します。大久野倶楽部では、里山の廃棄物を有効利用する「こと」に取り組んでおり、三六会さんと共に廃竹を炭にしちりしています。メンバーは平日腐植物質の研究・探索を行っており、朽ちた廃竹が腐植物質と類似の構造になっていることを突き止めました。腐植物質は自然界の浄化作用も担いますので、同様の挙動をすれば有効利用の可能性に近づきます。果たしてどうなるのでしょうか、乞うご期待です。



モキ M-100 を使用して



製造した竹炭

今後の展望

RBS ゴールドの性能評価を目的とした活動は、「こと」を起したい仲間たちと出会うことで想定外の広がりを見せています。「動かなければ見えない世界がある」、まさにそんな思いです。果たして今後どこに向かっていくのでしょうか。いろいろと汗を掻いてみて、そこで見える世界を味わいながら方向性を探って行きたい、そんな思いの大久野倶楽部です。